

陳情調書

(件 名) ドルフィンポート跡地における新総合体育館事業計画の建設場所、建設費用の見直しを求める陳情

(陳情の趣旨)

【陳情の背景】

ドルフィンポート跡地は桜島と錦江湾を望む絶好のロケーションです。そこに新総合体育館が建設されると、「世界に誇れる景観」という重要な観光資源が損なわれます。この場所の景観の損失は観光資源としての価値が著しく低下させ、観光業への大きな打撃が予想されます。

当初313億円とされていた整備費が、資材価格や人件費の高騰により488億円まで膨らむ見通しとなり、今後の本設計では、さらに整備費が膨らむことが予想されます。現在、整備費の上限については県執行部からは明確な回答はなく、どこまで費用が巨額になるのか不安を抱く県民は少なくありません。

鹿児島県文化センター（宝山ホール）など、大規模改修や修繕、建て替えが必要な時期に来ている公共施設も県内各地にあり、また、県立美術館新設などの要望も根強くあります。新総合体育館だけへの集中的な巨額投資は、あまりにもバランスが悪すぎると考えます。少子高齢化時代へ向けて、県全体の公共施設再編計画の中で投資が検討されていくべきと考えます。

新総合体育館建設では、離島からの利便性がことさら論拠となりますが、大切なのは島に暮らす子どもたちが日ごろの練習成果を充分に発揮できることであり、そのためには港のそばに建てることよりも、航空機運賃の補助がはるかに有効と考えます。

また、県大会の保護者のご意見には、送り迎えや飲食サポートが不可欠なので、体育館隣接の駐車場が必須です。その観点から体育館を新築頂けるのであれば、無料駐車場が広大に確保可能な地域に新築する事が重要であり、ドルフィンポート跡地のような鹿児島市では稀少な平坦地を使うことには全く合理も効率もありません。

【計画に対する主な懸念点】

世界に誇れる景観の損失：ドルフィンポート跡地の景観が失われれば、重要な観光資源が失われる。

土地の有効活用の機会損失：巨大なハコモノ建設によって、人口減少社会に向けた都市計画、観光客誘致などに柔軟に対応できる土地活用の機会が失われる。

過剰な投資と県財政への負担：新総合体育館への集中的な巨額投資は、他に改修、建て替え、新設が望まれる公共施設への投資が回らなくなる。

建設・運営費の増加により一般財源の圧迫が懸念される。

港湾・都市機能の問題：港湾事業における旅客、荷役などへの影響、災害時の安

全性、交通渋滞など、多くの課題がある。また、体育館は無料駐車場が広大に確保可能な地域に新築する事が重要であり、ドルフィンポート跡地のような狭い平坦地を使うことは不合理である。

以上の主旨に基づき、下記事項を陳情します。

記

1. 現在のスポーツコンベンションセンター（新総合体育館）事業計画について、景観、港湾・都市機能、公共施設への投資のバランスという観点から、ドルフィンポート跡地以外の建設立地と、建設費用の見直しを早急に再検討していただくことを強く要望いたします。
2. 島に暮らす子どもたちが日ごろの練習成果を十分に発揮するためには、港のそばに新総合体育館を建てることよりも、航空機運賃の補助がはるかに有効と考えますので、そのための補助を求めます。